

第1号

令和6年4月30日

庄和すずらん幼稚園

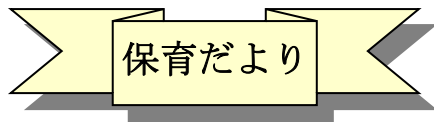
新しく入園された皆さま、そして、進級された皆さま、おめでとうございます。この“保育だより”は、すずらん幼稚園の園運営や教育理念、教育内容、教育方法、そして具体的な実践を、皆さまに知っていただく一助として、思いつくままに発表させていただく欄を“保育随想”として、園長が毎月一回を目安に配布させていただくものです。

保育随想

★ 人は環境で育ち、学びで人生は変わる！

私たちは、有難いことに、これまで幾多の出来事に出会い、乗り越えてきたと振り返ることがありますが、そこにはいつも誰かが居てくれました。此のところで、私も四か所の子ども達の生活がスタートする入園式に立ち会いました。成長する大事な柱は、取り巻く環境にありまして、取り分け大きな環境は人であります。集団では子ども同士の育ち合いと支え合う生活が始まり、此处までの大きな支えとなって来た両親や家族であります。自分の思うようにしてくれたら、子どもの意欲は大きく伸びる！とも言われる精神学者もおります。いろいろな人の中で、真似てみたり興味に任せて突き進んだりしながら、やってみることが大事なんでしょうね！愛ある言葉は、次への意欲につながります。意欲に満ちている子の話しは、心配が先に立つものですが、逆行する話は受け入れ難いことも、容易に想像できることですので、話を聞いて見なければ会話が成り立ちません。私たちが経験して来たことや、客観的には難しいと思われることや、その手立てや資金の問題などが、どうしても先に浮かび否定的なことを思いながら、あれこれと質問をしたくなったりするものですが、どうでしょうか？その心配の数々を乗り越える道や方法を考え始めるのではないのでしょうか。反対意見や苦言を聞く事もある中で、自分で成就する道を見つけ出す、この時間が生きる上で大事なところなのか思うのです。私たちは、子ども達の自立への道を歩む応援者であります。自分はこうしたい！と言ってくれたら、先ずは大成功なのです。じっと様子を見て静かに生きる場面や時期は誰にもあります。その人その人には、その時間が必要なのだと思います。今だに私達も周囲の影響を受けながら生きている一人ですが、環境人として生きている自負を持つとすれば、今のままでは居ない、これから大きな成長と変化を内在する一人の人間なのだ！というスタンスと距離感が肝要かと思うのです。

同時に私たちは、好奇心のおもむくままに、そして役に立つかよりも楽しさ優先で生きて来れたのも現実かと思います。合唱コンクールの練習のときに、声が良いね～！先生から言われて、その後一生懸命に声を出す生活を意識していました。それは、いろいろな楽器の演奏にまで興味が広がるのです。幾らかの体を動かす機会に恵まれて、とうとう体育の教師を目指したり、競争と言う場面にも身を置くのですが、やはり楽しいと思えることが原動力になって来たように思います。周りの人、中でも家族の対応は、そのワクワク感を抱かせてくれました。大いなる心配も掛けたのでしようが！



第2号

令和6年5月31日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 幸せになろうよ！

花言葉を贈る。今回の花は、フリース（香雪蘭）、花言葉は友情、親愛の情、感謝、あどけなさ（白）、純潔（赤）、無邪気（黄）、あこがれ（紫）、そして、原産地は南アフリカケープ地方となっております。 厳しい寒さは苦手なので、日本では伊豆七島の最南端で暖かい気候の八丈島での栽培が盛んだそうです。

人は誰もが幸せに向かう歩みを願い努力しています。そして、その幸せは出会えた人から貰って居ることを実感します。そんな風に考えると何人かの顔や出来事が浮かんで来ますが、何となく記憶のなかに消えてしまうのは勿体ないので、これまでの歩みを振りかえる中で浮かんで来る人は何人かおりますよね。振り返っている暇などないわい！と忙しく生きてお出での方も、何処かで振り返り思い出すことが沢山たまって来ることと思います。自分の人生に彩を添えてくれた人たちですから、その方のその時の事だけでなく、今の姿も思い描きながら過ごす時間は、改めて自分が前に歩み出せる気持ちに成れるものです。

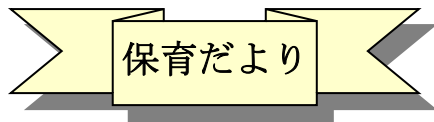
私は、学校を出てから5年ほど中学校に奉職をしました。それぞれに優秀な人たちでした。

先生って、どれだけ自分の人生に影響を与えるかの存在だよ！と話していることを耳にしながら、それでも若い者なりに精一杯過ごした、あの期間は楽しい青春の思い出であります。その人達から同窓会の案内が届いて、還暦も過ぎていることを知らされ、その立場で案内の席に行く気力は沸いて来ませんが、お祝いとお礼の気持ちは伝えるようにしております。

今更ですが、出会えた人を大事にする、相手を大切に思う気持ちが伝わって、長くつながっている関係もあります。それらの人達は過去の人ではないのですよね。今、私の周りに居てくれる人たち、一人ひとりと出来るだけ丁寧にお付き合いしますが、これから始まるヒストリーにつながるのですから、これから自分を支えてくれる人ですから、相手を見ながら相手の事情に踏みこみ過ぎないように気を付けながら、長くお付き合いできることを願っています。そして、人に喜んでもらう習慣、心掛けが楽しく新しい縁が舞い込んでくるのも、これからに夢が膨らみますよね。今までとちっとも変わらない自分が、ご縁の出来た人に新しいことに誘って貰う！これは、わくわくするものです。その人が楽しんで来たことのお裾分けも出て来ます。しかし、出来たご縁の長続きは、人は忘れる天才ですから、先にも申し上げましたが、相手の事情に踏み込み過ぎない事としながら、時々のごあいさつは心掛けたいものです。素敵なお縁は、本当に豊かな気持ちにさせてくれますからね。

最近、長渕剛さんの、しあわせになろうよ！という歌を教えてもらいました。少々歌詞の意味合いは違うのですが、良い響きです。

出会った頃の二人に、もう一度もどってみよう
そして二人で手をつなぎ 幸せに成ろうよ～



第3号

令和6年6月28日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

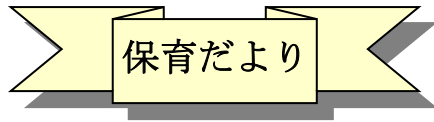
★ たった、ひとりの人！

今月の花は、かすみ草です。花言葉は無邪気、幸福、感謝、清らかな心、純潔、親切（白）切なる思い、感激（ピンク）、原産地はコーカサス、イラン北部、アジアです。かすみ草だけの花束ならクリスタルの花瓶に入れるのもおしゃれ、殆どの季節に手に入るのも、季節の花と組み合わせて、かすみ草を添える花束は、一層のお祝いに成ることでしょう。

私は小学校6年の後半に成ってカメラを買って貰いました。手にして以来、近所中と言って良いかと思いますが、出会う人の写真を撮って、形にして差し上げるのが喜びでした。駅前の商店にも出かけて行き、後から名付けるのですが、働く姿をテーマにお店で働く大人たちの姿も沢山撮りました。当然、そんな中にも母親の農作業風景も撮りました。お店の人にも母親の、その瞬間の姿を撮っていたのですが、果たして内面まで思い巡らしての事だったのではなかったと思います。何とも恥ずかしい思いであります。良く皆さんがカメラに収まってくれたものです。それは記録としては喜ばれていたと思い込んでおりまして、「ひろっさんに撮ってもらった写真、今でも仏様のわきに飾ってあるよ！」と随分あとに成って言われたこともありました。この道では、途中から出会った幼稚園の子ども達を撮影してくれた写真屋さんが言われた言葉も残っています。「写真は良い、撮る時にっこり、お渡しする時にっこり、そして、先日はありがとうございましたと、三度にっこり出来るんです」とお仕事にも歓びを見付けておりました。その後もカメラは持ち続けで、折に触れてシャッターを押すのです。流石に近年は被写体に成ってくれる人の心情や生活も思い描きながら撮るので、その昔の頃の写真とは、思い入れが幾らかは違っているかと思いますが、相変わらず人なのです。自然の美しい風景を残したり、春夏秋冬の季節の変化を撮り続けて、小さな草花や小動物に目が向かない自分を、一人前の大人に成れていない等と思うのです。やはり、人なんです。冒頭でも花言葉に近頃触れて居ますが、花言葉をご紹介しながら、今月にお誕生日を迎えられた人達にも喜んで貰える一助のメッセージに成ることも願うところなのであります。私のカメラ人生も、ご縁の出来た方々の生き様の姿を残す喜びとして、近頃は携帯電話に変わって来ましたが、皆さんと生きて行くツールなんです！もっと自然や周囲に視野を広げてとは行かないのかと言うテーマですが、今まで通りの課題は課題として人を追いかけるシャッターになるかと思っています。

周囲は、自分の人生の姿を映す鏡なんです。と言われたことがあります。自分の姿を周りの人から教えて貰って居るのですよと言われました。

幼稚園や保育園にも人に合える機会が多くあります。一人ひとりの今と向き合いながら、その方の背負っていることを出来るだけ受け止めて対応することは、毎日、幼稚園で生活する子ども達と接する事と同じです。このご縁を大事にして行きましょう。



第4号

令和6年7月30日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

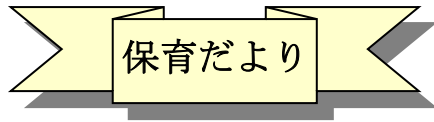
★ あきっぺ！

年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからずと人の哀れと戒めを表す言葉がありますが、季節が移り変わりました今月の花は、ダリヤです。花言葉は加齢、気品、優雅、感謝（白）栄華（赤）、優美（黄）、原産地はメキシコやグアテマラなどの高地になっています。日本へは江戸時代末期にオランダから持ち込まれたそうです。青い色素と甘い香りは、もともと持ち合わせていないようです。自信ありげに決して下を向かない花姿から、花言葉も前向きで優雅で贈り物としては最適な花です。

私たちは、いつの頃からか走ることが楽しくなったり、動くことの楽しさを覚えて動いて来ました。疲れたときも休むことは、良い結果につながらない事として続けてきました。私は幼い頃に、母親の農作業の手伝いをしている時に、あっちこっちと気が散りながらして居ると、「ひろやはあきっぺだかな〜」と言われた事が残っています。その通りなんです！その通りなのですが、その後の生活にも長く影響を持って暮らしてきました。面白い事にも沢山出会って、その時その時に打ち込んで成果や結果や形に成るものは残しておりませんが、その間も辞めたくなくなったりすることがありました。これは、青春時代と言われる朝鮮の時代にも、時々顔を出してきました。気が散るのは自分の性格で仕方ないか！などと落ち着き場所を作ったりしながらの、悩める少年でありました。何とか落ち着いた生活をしたと思う少年は、楽しさも見つけられて打ち込んで、幾らかのそういった不安や悩みから離れられる事になるのですが、その後にも新たな悩みが次々と目の前に出て来るのです。早く走ろうとすれば、当然向かう風は強く吹いてくるものです。また、じっとしていると、これはこれで良いのかと不安が出て来るのです。そして、周囲だって黙って見ていてはくれません。

今を過ごす幼稚園の子ども達も、一方で矛盾との戦いの時代！と表現する人がおりまして。自分の思う通り行かないのですから、何で駄目なのか、これは誰が決めたんだ！思いの違う友だち同士だけではなく、世の中の決まりごとなんだって！等々、幼稚園生時代也大いに悩みを抱えて生きているのですが、良い環境と関わってくれる人たちのお陰で、自分を信じ生きていくことの楽しみを見つけれられています。そして、その後には人のために生きる喜びにも到達するのです。凄いことです。これも関わってくれた人たちや環境で、自分の中にきちんとしたこともない中でも、形にしたり動こうとする気持ちが沸いて来るのですから。

人間には、まっすぐ伸びよう！ 大きくなろう！ 人のためになろう！ みんなと仲良く生きよう！という風に創られているのではないのでしょうか。穏やかな気持ちで暮らす私達の先は、そんな気持で創り出せると思うのです。子ども達が教えてくれています。



第5号

令和6年9月30日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 自分を休ませよう！

今月の花言葉は、秋明菊（しゅうめいきく）です。秋に明るく咲く菊のような花で、京都の貴船山に多く咲いていることから、貴船菊とも呼ばれています。花言葉は、強い風にも負けない丈夫で凛々しい姿から忍耐、ふんわりと優しく咲く姿から淡い思いと付けられました。一輪挿しに水引やススキなど季節の植物と組み合わせて床の間に生けると、落ち着いた雰囲気日本の秋を演出してくれることでしょう。

さて、暑さ寒さも彼岸まで！とは言われて来ましたが、何とも、その言い伝えに添った様に秋の様相を呈して参りました。今までに経験したことがない猛暑も静まり、秋の気配は幾らかの寂しささえも感じる昨日今日ですね。我々は幸いにして四季を通してその季節を味わい自然の下で生かされています。つい最近までの暑い中でどんな生活をして来たのだろう！当たり前のように涼しく成ると、生きるのに精一杯だった時の生活や話して来たことなどが、当たり前のように過ぎ去ってしまいます。その時を精一杯生きて自分を守って、生きる様に作られて居るのですから、そして、次へ向かって生きる様に作られているのですから、そして、人間は物事を忘れられる様に作ってもらっているのですから、それが自然ですよ！

と生きて居りますが、どこかで、何かにこだわりながら生きているのも人間なんですよ。どんな時にも、今のあなた、それで良いの？などの声が聞こえてくるんです。誰からですか？それは、お分かりのように天に居る神さまか親の声なのか、いえいえ、自分の中から湧いて出る思いなんですよ。これに支えられたり苦しめられたりしながら、生き抜いているんです。そんな中で、仕事も人生も持続可能にするために、気持ちをリセットする小さな楽しみも持ちながら誰もが行って居るんですね。リセットをする方法は、百通りあると思いますが、喰う、寝る、休むも大いに効果はあると思われませんが、脳と体を休ませるには～！

少し話は脱線しますが、長時間の潜水の競争がありますが、物事を考えることを停止させる方法や技を身に付けて人が勝つのだそうです。脳が活発に働くことは脳により多くの酸素が必要になり、酸素の供給が出来ない状態を続けて行くための方法と聞きました。こんな特殊な環境や状態でなくとも、地球上で普通に生きている私達でも、脳の疲れは体の疲れに成るようです。脳の上手な休ませ方は、もしかしたら長生きの秘訣に成るかも知れませんね～！それぞれの経験や年齢、環境で異なるかと思いますが、幼児も若人も老人も等しく、脳を休ませる所業は、**友だちの話しをする！友達と話をする！**辺りにあるのではないかと思います。頑張れ、がんばれ！の状況もありますが、長くは続きません！休ませることは習ってきませんでした。その点、幼稚園はいいですね～！友だちと遊びながら、話しをしながら生活するのですから！遊びながら疲れが無くなっているんです。友だちと話す生活は、我々大人たちも上手に脳を休めるヒントがありそうですね。子ども達は疲れていませんもの。